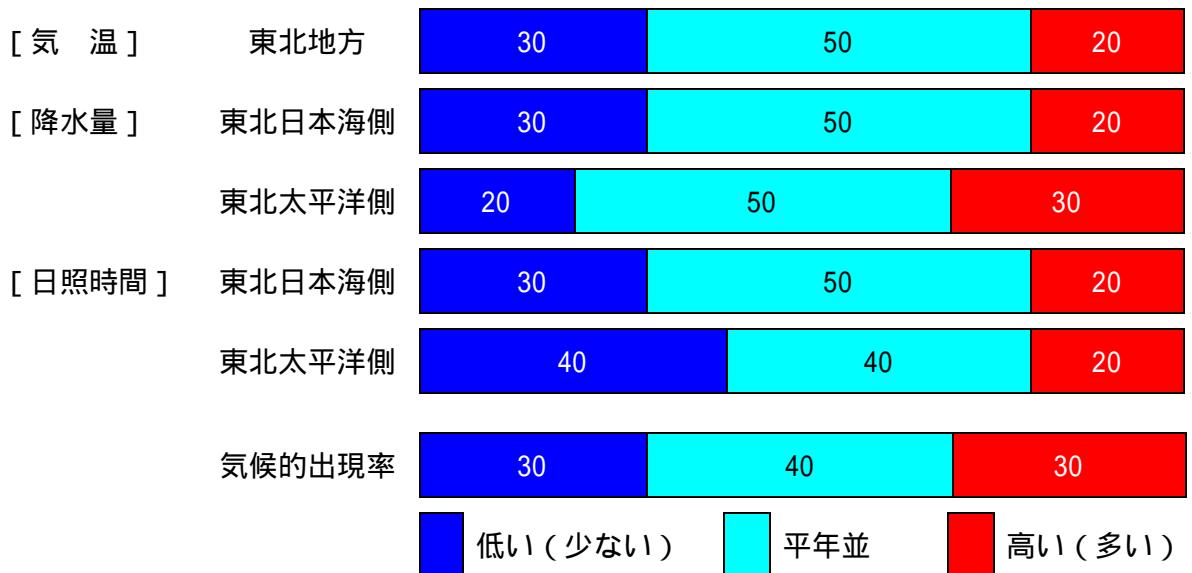


東北地方 1か月予報の解説（予報期間：05月15日～06月14日）

平成11年05月14日 仙台管区気象台

1. 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）



[気温]: 東北地方は「平年並」の可能性が大きく、その確率は50%です。次に大きい確率は「低い」で30%です。「高い」確率は20%と小さい。

[降水量]: 東北日本海側は「平年並」の可能性が大きく、その確率は50%です。次に大きい確率は「少ない」で30%です。「多い」確率は20%と小さい。

東北太平洋側は「平年並」の可能性が大きく、その確率は50%です。次に大きい確率は「多い」で30%です。「少ない」確率は20%と小さい。

[日照時間]: 東北日本海側は「平年並」の可能性が大きく、その確率は50%です。次に大きい確率は「少ない」で30%です。「多い」確率は20%と小さい。

東北太平洋側は「平年並」か「少ない」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ40%です。「多い」確率は20%と小さい。

2. 予想される天候の特徴（もっとも高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです）

向こう1か月

この期間、低気圧や高気圧が交互に通り、天気は周期的に変わるでしょう。しかし、期間の後半は太平洋側を中心に、前線の影響をうけ一時天気がぐずつくでしょう。

平均気温は「平年並」でしょう。

各予報期間の天候の特徴

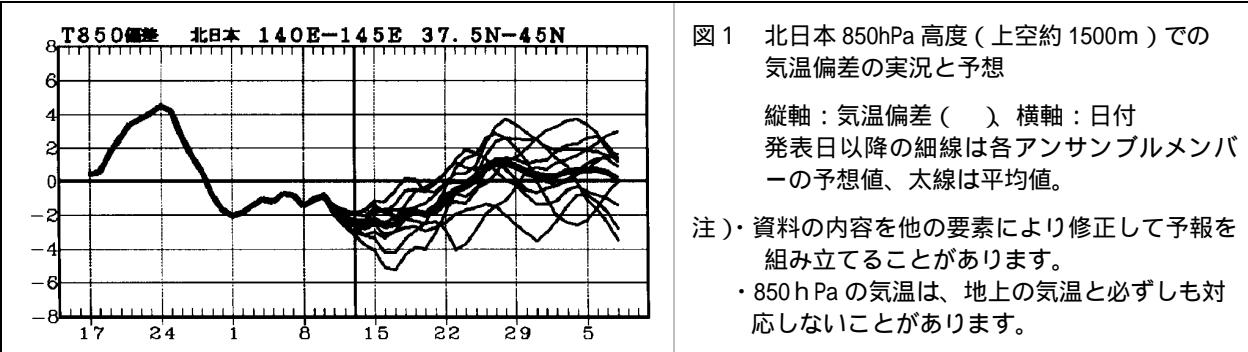
1週目…………… 気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多いでしょう。
(05月15日～05月21日) 平均気温は低い見込みです。
(詳細は週間天気予報を参照)

2週目…………… 低気圧や高気圧が交互に通り、天気は周期的に変わるでしょう。
(05月22日～05月28日) 平均気温は平年並の見込みです。

3～4週目…………… 低気圧や高気圧が交互に通り、天気は周期的に変わるでしょう。
(05月29日～06月11日) 太平洋側は前線の影響をうけ、一時天気がぐずつくでしょう。
平均気温は平年並の見込みです。

3. 850 hPa の気温偏差の実況と各アンサンブルメンバーの予想

北日本 850hPa の気温は、アンサンブルメンバーを平均すると、1週目は平年より低めに推移し、2週目以降は平年並が予想される。アンサンブルメンバーのバラツキは大きくなく、各々のメンバーも総じて昇温傾向にある。信頼度は普通程度と考える。



注：1か月予報では、よく似た初期値から出発した10個の数値予報結果のバラツキ具合から予報の信頼度や確率を計算します（この手法をアンサンブル予報といい、10個の予報結果のそれぞれをアンサンブルメンバーといいます）。一般に予報結果がばらつかないほど、大気の流れが予測しやすい状態にあると考えられます。このような状態の時は、信頼度が高くなり、確率の大きな予報を出すことができます。

4. 最近1週間（05月07日～05月13日）の天候の経過

この期間、高気圧に覆われおおむね晴れた。10日には寒冷前線が通過して全般に雨となり、太平洋側では雷雨となるところもあった。

気温は平年より高く、降水量は平年より少なかった。日照時間は平年より多かった。

表1 最近1週間の 平均気温、降水量、
および日照時間の平年差（比）
(地域平均値、アメダスによる速報値)

	気温偏差（℃）	降水量（%）	日照時間（%）
東北全域	+1.1	7	132
東北日本海側	+0.5	3	129
東北太平洋側	+1.4	10	133